

滿洲土木

一木
佐藤
竹内
福岡
石井

第一卷 第六號

七月號

目次

[特輯]

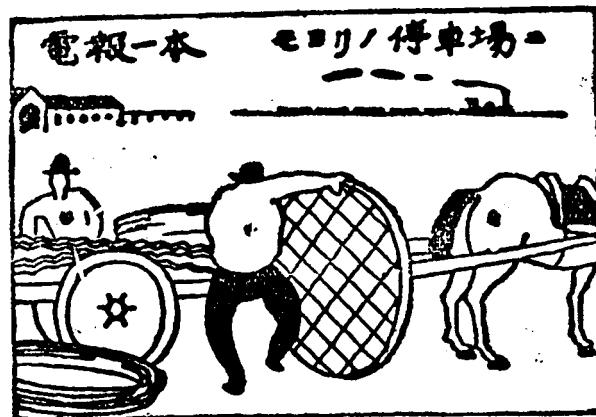
航空港座談研究會



滿洲土木學會

展示期限
16.10.18

川崎の鐵線蛇籠



滿洲川崎鐵網株式會社

奉天鐵西區興工街三段六號

電話春日局(3) { 6274
4805
6347

登錄電報宛名 奉天鐵西局アミカワサキ

工場 奉天鐵西區興工街三段六號

川崎鐵網工場

本店	東京市芝區田町二丁目十八番地
支店	出張所 大阪 京城 札幌 福岡
工場	東京 大阪 京城
滿洲工場	奉天鐵西區興工街三段六號

川崎鐵網商報謹呈

會 告

第1回學術講演會開催に就て

今般土木工學に関する學術の振興を期し時局下國民の科學技術翼賛への積極的參加
なす爲下記に依り學術研究發表講演會を開催します、奮つて多數會員諸君の講演御
出下さらん事を御通知を兼ね御願ひします。

記

- 1 開催期日並場所………10月下旬於新京(日時會場追て確定)
- 2 講 演 内 容………土木工學全般
- 3 講 演 人 員………10名内外
- 4 講 演 時 間………1人20分間
- 5 講 演 者 資 格………正准副其他の會員
- 6 講演申込方法………講演題目に二三行の簡潔なる梗概を添附来る10月10日迄に本會事務所宛
申込むこと。尙講演希望者多數の場合は常議員會に於て證衡しますから豫め御承知下さい。
- 7 講演者には期日前に通知をなし講演會終了後記念品を贈呈し表彰す。以上

第1回通常總會開催に就て

来る10月3日(金曜)午後4時より滿鐵新京支社に於て第1回通常總會並附隨行事と
て記念講演會、見學會、懇親會等を開催致します、萬障御操作せ御出席下さい。
追て正會員及特別會員代表者には既に御案内致しました通り所定のはがきを以て出
缺を御回報願ふ事に成つて居りますが准會員、副會員、の方で見學會、懇親會等に
御出席の場合は準備の都合上至急本會事務所宛御一報願ひます。

記

總 會

- 1、康徳7年度事業並決算報告
- 2、役員選舉の決結果告

會 告

ハ、特定期間中入會金免除の件

2. 記念講演會……總會終了後於總會々場(4時30分)

イ、會長講演……佐藤應次郎君(滿鐵副總裁)

ロ、滿洲國々土計畫に就て…… 正會員 沼田征矢雄君(國務院總務廳參事官)

3. 懇親會……午後6時於ヤマトホテル(會費5圓)

4. 見學會……4日午前9時30分迄に大陸科學院玄關前集合

見學場所 大陸科學院 航空寫真處(豫定)

〔注意〕 見學申込の場合は手續上必要に就き原籍地並職名をお忘れなく30日迄に御知せ下さい

以上

會費納入に就て御注意

本會々員の會費は下記の通り規定されて居ります。尙正會員、准會員には會誌を二種配布の上臨時會費を納入願ふ事に成りますから御承知下さい。

會員種別	年額、會費			第1期分	第2期分
	會費	臨時會費	合計	自1月至6月	至7月至12月
正會員	1200	600	1800	900	900
准會員	900	400	1300	650	650
學生會費	600	—	600	300	300
副會員	600	—	600	300	300

備考 ◎會費の納期は第1期分3月、第2期分は9月の2回に分納願ふ事に成つて居ります。通知が御手元へ参りましたら直に御拂込下さい。

◎會費納入に就ては送附します振替用紙御利用下さいと拂込料金不要です、御其他御不在の場合でも拂込に支障なき様御配慮願ひます、尙振替貯金事務を取扱る地方に在住の方は爲替其他適當の方法にて御送金下さい。

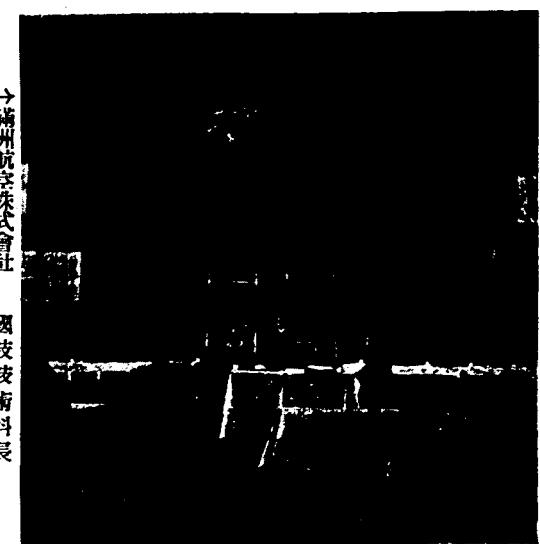
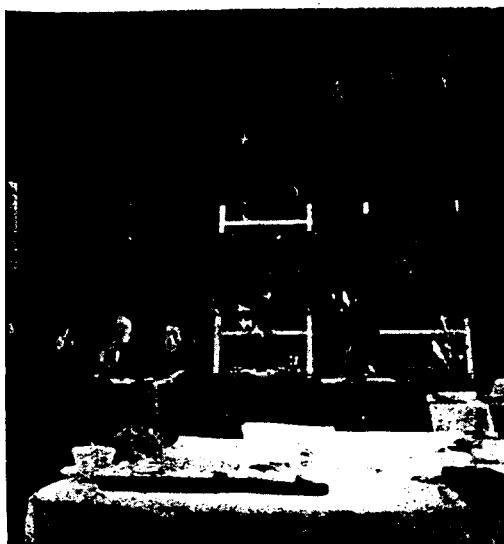
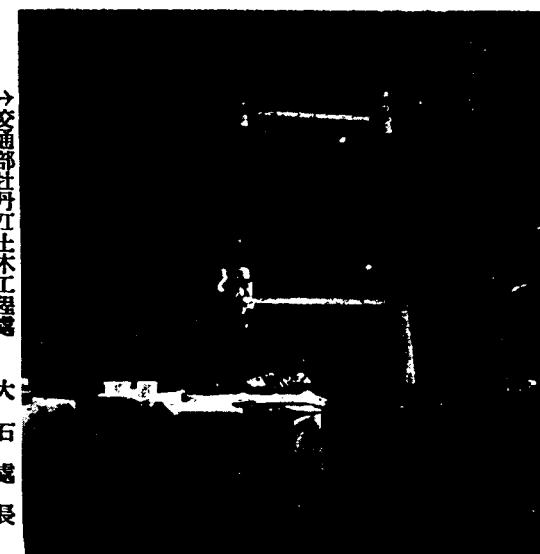
◎新入會員の會費並轉格の場合は月割計算とします。

◎會費御拂込後領收書は普通御送り致しません、特に必要の場合又は御不審の點あります場合は御一報下さい。

御願ひ

轉居、轉勤等の場合は必ず其都度御通知下さい。會員名簿の訂正、會誌發送其他會務處理上御願ひ致します。

航空座談研究會グラフ



航空港座談研究會

まへがき

航空問題が眞剣に論議され、その政策並に施設が眞切に實行されつゝある事は既に充分御承知の通りであります。然し併ら航空問題と一口に云ひましてもその内容は實に多岐にわかつて居ります。之を大まかに分けて見ましても航空機、通信照明、氣象並に飛行場と、それに飛行員養成の五分科があります。之等の各分科は夫々獨立に經營な施策なりを遂行する事は出来るものでなく、その相互關係は極めて密接なるものがあります。従つて眞の航空港を所期せんとせば此等の各分科の併行促進が絶対必要であります。ましてその内ひとつのが後れても勿論の事進み過ても所期の効果を擧げる事は出来ないのがあります。

航空問題に關しては斯様な重大な關係が内在して居りますのでこれに携る者は各分科の進歩程度並に各の専門技術に通じて滑順自在にその運営を計らねば航空の躍進は望まれないであります。從來航空についての研究會な座談會なりは各所で屢々催され高大の効果を擧げて来て居ますが未だ航空に關する綜合的技術的研究會或は座會は殆ど催された事はない様であります。之は關係者を網羅して一堂に會する事は容易な事でない事に大きな原があらうかと思はれます。この困難さを克服して今回交通部牡丹江土木工程處主催の下に綜合研究會が催されたは斯界の爲誠に有意義な事と申さねばなりません。

牡丹江に於ける研究會は5月26日牡丹江厚生會館で行はされ一堂に會する者軍官民合せて200名餘。各講演毎に由討論が眞摯に行はれた事は注目に値するものであります。

研究會の次第並に講演題目は次の通りであります。

開　會　の　辭	交通部牡丹江土木工程處	友納庶務科長
挨　拶	同	大石處長
同	交通部航空司	内海航空司長
講　演		
航空機の趨勢	滿洲航空會社	國枝技術課長
航空安全施設に就て	交通部航空司	松平通信科長
航空氣象に就いて	中央觀象台	土佐林調査科長
航空土木の概念に就いて	交通部航空司	羽中田參次
排水理論とその應用	交通部東安土木工程處	勝海恭次郎
芝草に就いて	新京特別市公署	佐藤公園科長
滑走路鋪裝	交通部航空司	伊地知飛行場科長
簡易鋪裝試驗	大陸科學院	前田研究官
航空と防空	滿洲第七五部隊	吉満參謀
飛行場の防空	空務協會	佐竹副會長
挨　拶		内海航空司長
閉　會　の　辭		友納庶務科長

講演内容を御覽になりますと御解りの事と有りますが飛行場に關する問題が高く盛られて居ります。土木技術者し飛行場の裝備に關して今後大いに研究すべき事項があるべき事を注目すべきであらうと思ひます。

本研究會記録は貴重なものとして別に刊行する豫定であります。但し内容が土木に關する事項が重點的になつて居ますし且つ技術者として飛行場並に航空一般の知識を涵養するに好適なものでありますので「土木滿洲」の特輯として編纂する事をお願ひ致しました結果心良お許し下さつたので此處に「土木滿洲」の特輯號として刊行して載りました。

滿洲土木學會に對し謝意を表する次第であります。（羽中田記）